

AOYAMA OIKOS NOMOS



青山学院大学経済学部同窓会会報

2000. 5.15 第1号

経済学部同窓会会報の発刊を祝って

大学学長 半田正夫



昨年、経済学部創立50周年を迎えたのを期に同窓会が設立され、そしてこの度、同窓会第1回会報が発行されるとのこと、心よりお祝い申し上げます。皆様すでにご案内のように、青山学院は本年3月に新日鐵が研究所として有していた相模原の土地を購入し、これを大学

が校地として使用することに決定しました。これを受けて大学では目下、新校地問題検討委員会を設け、この活用に向け検討を開始しました。来るべき21世紀は大学が大きな転

換を迫られる時代であると考えます。この新しい時代に対応しながらも他校を凌駕する素晴らしい大学づくりを目指して頑張りたいと思っておりますので、校友の皆様もご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

昨冬、私は学長として立候補する際に、所信表明のなかで、「校友会との連絡を密にし、卒業生、父兄と大学との一体感を醸成する」趣旨を述べましたが、少子高齢化が進み激化が予想される大学「生き残り」時代に本学がさらなる発展を遂げるためには、校友の皆様との緊密な連帯が必須であることはいうまでもありません。その意味で、経済学部が同窓会を設立し、さらに会報を発刊するにいたったことはきわめて意義のあるところと考えます。大学とともにある経済学部同窓会のご発展をお祈り申し上げます。



経済学部同窓会設立総会 —1999.9.23(第6回大学同窓祭当日)— 総研ビル大会議室にて

経済学部同窓会発足す (同大学設立50周年を記念して) 1999.9.23

青山学院大学経済学部卒業生の有志は、かねて「経済学部同窓会」を設立すべく準備中であったが、去る1999年9月23日、同大学設立50周年記念式に合わせ、同窓会の設立総会を開催、会則等について同窓会員の賛同を得て正式に発足した。その骨子は次の通り。

- 名称：「青山学院大学経済学部同窓会」と称する。
- 目的：会員相互の親睦と研鑽を図るとともに、大学および経済学部の発展に寄与する。
- 会員：経済学部(商学部も含む)卒業生を「一般会員」、同学部の教職員らを「特別会員」とする。
- 総会は、毎年1回、6月までに開催。
- 役員：会長(1名)、副会長(2名)、幹事長(1名)、副幹事長(1名)、会計委員(2名)、監査委員(2名)を置く。
- 学年幹事：学年ごとに学年幹事1名と副幹事若干名を置く。
- 常任幹事会：1952年卒業生より3年度ごとに1名ずつと、会長推薦5名の30名をもって構成する。
- 会費は、①年会費3,000円、②終身会費(60才以上)30,000円とする。



▷会長…榎本弘(商29)。▷副会長…石井信之(経41)、川野繁(経53)。▷幹事長…室伏孝一(商29)、副幹事長…富田直(経H5)▷会計委員…天野知恒(商31)、今井義弘(経35)。▷監査委員…寺田孝行(商29)、水澤郁夫(商30)。▷常任幹事…大賀禮(商29)、佐藤尚(商29)、桃澤秀夫(経30)、船津昭夫(商32)、藤吉邦通(商34)、飯村肇(商35)、門川光雄(経35)、白井茂(経37)、西尾隆司(商37)、清水美子(経39)、相川和宏(商44)、松原優子(経46)、本郷茂(経47)、梅田澄子(経48)、白岩保男(経53)、志村一彦(経55)、相原一浩(経58)、河野初樹(経61)、中田宏(経H1)、佐藤剛(経H5)、花岡雅夫(経H7)、香西秀樹(経H10)。

初代会長に榎本弘氏(商29)を選出 幹事長は室伏孝一氏(商29)

同窓会設立総会は、1999年9月23日午後4時より青山学院大学総研ビル大会議室に、同窓会設立に賛同する卒業生、教職員ら2百余名が参集し開催された。

まず、設立準備委員の室伏孝一氏(商29)の発議により設立総会が開始され、ついで発起人代表の榎本弘氏(商29)が、本同窓会設立までの経緯などにつき説明。引き続き、同氏が設立総会の議長に就任した。

直ちに議事に入り同窓会会則(案)および同窓会役員(案)が上提され、検討の末いずれも可決された。なお、可決にあたっては、主として中堅層の同窓生より、積極的かつ建設的な意見が出され、これらの意見を織り込んで一部修正された。

同窓会役員は次の通り(敬称略。任期は2001年9月23日までの2年間)。



榎本弘会長就任挨拶要旨



青山学院大学卒業生の組織としては、すでに「校友会大学部会」があるが、経済学部卒業生も34,000余名となり、多くの同学部卒業生より「経済学部同窓会」を新設してはとの声が出ていた。たまたま経済学部創立50周年にあたる本年(1999年)に同窓会を設立しようとの動きが具体化し、有志により1998年10月に第1回目の設立準備委員会が持たれた。その後、設立の賛同者が増え、発起人も既に300余名、4回の準備委員会が持たれた。

第4回目は、発起人総会として、会則原案の検討や役員を選考委員会の設置が承認された。

経済学部同窓会の目的は、校友の懇親と連帯、そして母校との関係を密にし、母校の発展に寄与する有形無形の支援にある。

経済学部は、卒業生の数において青山学院大学最大の学部であると同時に、その卒業生は各方面で活躍中であり、卒業生同士の連携も密である。この力を「経済学部同窓会」という形で結集することにより、卒業生間はもとより、母校にとっても色々な面で大きな力になるものと確信している。

21世紀に飛躍を誓う経済学部設立50周年記念／同窓会設立祝賀会

青山学院大学経済学部では、去る1999年9月23日アイビーホール青学会館において、同学部設立50周年を記念する設立記念式典を開催、引き続き同学部設立50周年記念パーティを行った。

なお、このパーティは、当日午後4時より開催された経済学部卒業生有志により発議され承認された「経済学部同窓会」の発足祝賀パーティも兼ねたものであった。

まず、式典は杉浦勢之教授(経55)の司会で始められた。経済学部宗教主任の東方敬信教授(経41)により「神は私たちを学び舎に招き、真理はあなたがたを自由にすると聖書を通して語って下さった。今、50年を正しく顧み、継承し、21世紀に向かい、自由に、勇気を持って学び、活動できるように



導いてほしい」と、開会の祈祷が捧げられた。

のち、熊谷彰矩経済学部長、羽坂勇司理事長、深町正信院長、國岡昭夫大学学長、および平光淳之助校友会会長より、それぞれ祝辞が述べられた。ついで、経済学部体育担当の高村雄治教授の発声により、乾杯、経済学部卒業生およびその関係者の一層の飛躍を祈念した。

引き続き、「経済学部同窓会」の祝賀会に移った。祝賀会は鈴木幸三氏(経35)および杉浦勢之教授の司会進行で進められ、同窓会新役員榎本会長らの紹介があった後、参加者2百余名は、杯を高くかかげ、用意された料理に舌鼓を打ち、かつて学んだ青山学院の思い出や、卒業後の同窓生との交流など、こもごも語り合い、楽しいひとときを過ごした。



羽坂勇司理事長挨拶

(学院の発展のために)



今から100余年前、青山学院の校友会が発足しました。今、青山学院では、未来に向かっての改革に真剣に取り組んでいます。校友の皆様も、この改革に大きな関心を持っていただいていると思います。学院としては、校友の皆様が社会で活躍されることを祈願しておりますが、これは即学院の評価につながるものと信じております。この学院と校友との結び付きが一層強くなり、学院の発展のためにも、校友の皆さん、学院に足を向けて下さい。

深町正信院長挨拶

(学院への帰属意識を高めたい)



青山学院大学経済学部といえば、私は、10年前に亡くなられた大木金次郎先生を思い出さずにはいられません。

先生は、実に36年間に亘り、青山学院大学、同経済学部および同学院のため、全力を尽くされたのです。現在、青山学院は、幼稚園から大学院まで、様々な内外の変化、革新に対応するべく努力しております。どうか校友の皆さん、この革新の時にあたり一層「母校への帰属意識」を高め、いろいろな方面でのご支援を賜りますようお願いいたします。

國岡昭夫大学学長挨拶

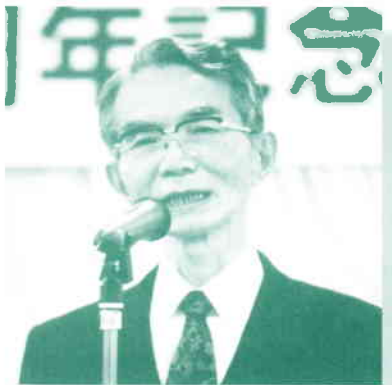
(経済の重みを認識したい)



現代の社会は技術革新の時代といわれています。しかし、どんな素晴らしい技術を持っていても、経済的なセンスがなければ、その技術は生かされないことも事実です。現代社会がいかに経済に期待しているかを考えると、私たちの学びの重要性が身にしみます。今後の飛躍を望みます。

熊谷彰矩経済学部長挨拶

(「経済学の第3の危機」を乗り切ろう)



1949年、新制大学として発足した青山学院大学、その経済学部が誕生して50年を迎えたこの年、新たに「経済学部同窓会」が設立されたことは、二重の喜びです。

かの英国の経済学者ジョン・ロビンソンが、1970年代の経済状況を評し、「経済学の第2の危機」といいましたが、今は、「第3の危機」といえるかもしれません。しかし、21世紀に向けて、日本はもとより、世界から経済学への期待は極めて大きいものがあると考えています。

私たちはこれに応えるべく、一層の研鑽を積み、情報を広く世界に発信しつづける、これが大切なことと信じます。

平光淳之助校友会会長挨拶

(学院最大の力を結集してほしい)



校友会の役割は、校友の皆様の親睦を図ることも重要ですが、今一つは、校友会の力を結集して、様々な面で学院に寄与することです。

現在の校友会は、海外を含め62支部あるうえ、さらに毎年新しい「同窓会」が誕生しています。

本日、「経済学部同窓会」が誕生しました。誠に喜ばしい限りです。経済学部は、在籍者数においても、卒業生においても、青山学院最大の学部です。また、この卒業生は、文字通り社会で大活躍中です。校友会最大の柱です。どうか、今後の青山学院校友会の「大黒柱」になって下さい。



経済学部創立50周年記念シンポジウム

経済学部設立50周年を記念するシンポジウムは、以下の二部構成で、1999年9月23日(木)、総研ビル大会議室で行われた。

第一部は現同窓会会長榎本弘教授による特別講演「経済学部50年」であり、第二部は記念シンポジウム「経済学への期待…経済学部から未来への発信」であった。



榎本教授

榎本教授の講演は、学部の変遷を、学部前身から説き起こし、学部の歩みの年表と現在のカリキュラムを示しながら詳細に展開され、出席者に感銘を与えた。更に、約3万5千名の卒業生を送り出し、世間的に一定の評価を得ているとしながらも、現在、解決を迫られている問題点も指摘された。それらは、専門教育

の充実、語学教育の徹底、ゼミ教育の重視、キリスト教的人間教育などである。最後に、青学関係の先輩諸氏からの支援を要請されて講演をしめくくった。

第2部のシンポジウムは、日向寺純雄教授の司会のもとで、以下の4人のパネリストによるシンポジウム・テーマをめぐるそれぞれの専門分野からの報告がはじめになされ、その後、会場から質問が出され応答がなされた。先ず、最初にパネリスト名とその論題を示しておく。



日向寺教授

本間照光教授

「人間中心の経済…福祉は経済を支え、人をつくる」

深川由起子助教授

「アジア経済の再生と日本の役割：脱欧入亜が拓く未来」

三條和博助教授

「後始末経済学」のすすめ

堀真理子教授

「芸術の効用：文化経済学の時代」

本間教授は、真の豊かさは一人一人の人間の生活基盤を社会全体で支えるような在り方にこそあるとされ、J. ラスキンやA. センなどの人間主義的経済学を再考すべきことを社会保障論の立場から主張した。



本間教授



深川助教授

東アジア経済論が専門の深川助教授は、日本経済が歴史的に本来持ってきた物づくり経済の精神は、21世紀に向けてアジア経済に充分貢献できることを力説した。

更に、三條助教授は、環境経済論の立場から、環境汚染や見通しなしの濫開発がもたらす不可逆的な不利益を考慮され、評価と責任にもとづく「後始末の経済学」を提唱され、経済学と自然科学の協力関係の重要性を示した。

最後の堀教授は高度経済成長後の成熟社会における実験的な演劇による、町・村おこしの試みを紹介された。そして、この試みを実質的にバック・アップする研究領域として文化経済学の意義に言及した。



三條助教授

以上の、社会福祉、アジア経済、環境経済、文化経済をめぐる論点に対して、会場からも意欲的質問がなされシンポジウムは成功裡に終わった。時間的な制約もあって、4つの問題提起の相互関連についての議論が深められなかったことは残念であった。

なお、第一、二部のシンポジウム全体をまとめたブックレットが経済学会から刊行されています。入手希望の方は経済学会室(TEL.03-3409-8111、内線12236)にお問い合わせ下さい。また、6月24日、経済学部同窓会第1回総会出席者にも贈呈します。



堀教授

INFORMATION

- ◆1999. 9.23 設立総会（総研ビル大会議室。280名参加）／設立記念パーティ（アイビーホール青学会館。280名参加）
- ◆1999.10.15 拡大役員会
- ◆1999.10.21 第1回役員会
- ◆1999.11.24 第1回常任幹事会
- ◆2000. 1.25 第2回常任幹事会
- ◆2000. 2.22 第3回常任幹事会
- ◆2000. 2.25 第1回幹事会
（アイビーホール青学会館サフランの間。105名）
- ◆2000. 3.14 第4回常任幹事会
- ◆2000. 3.25 本年新卒者（737名）への入会勧誘
（卒業式。新卒者の年会費は1,000円とする）
- ◆2000. 4. 6 第2回役員会
- ◆2000. 5. 1 第5回常任幹事会
- ◆2000. 5.15 会報第1号発行
- ◆2000. 6.24 第1回総会 青山キャンパス内
午後2時～総会／午後4時～経済セミナー
講師：松澤 建氏
（経35卒。日本火災海上保険（株）社長）
出席者に設立総会当日に開催された経済学部50周年記念シンポジウムをまとめたブックレット贈呈。
- ◆2000. 9.23 第7回大学同窓祭

AOYAMA OIKOS NOMOS (AON)

～アオヤマ・オイコス・ノモスの語源～

Oikosとは家計、家政の意味で、古代ギリシャにおけるポリス（都市国家）の経済の最小構成単位とも呼べるものです。Nomos は規制、規範、きまり、術などの意味を持っています。それ故、オイコス・ノモスは家政術、家計術の意味を持っています。

ポリス (polis)のオイコス・ノモスがpolitical economy（政治経済学）のルーツとなったもので、モンクレチアン（1615）やスチュアート（1767）がpolitical economyを主著のタイトルにいています。オイコス・ノモスについては、クセノフォンがはじめて使ったと思われませんが、アリストテレスはオイコノミケー (oikonomikē) とクレマティステケー (chrematistikē) とを峻別し、貨殖術を意味する後者を否定し、前者こそ本来の経済活動であるとして肯定しました。

青山学院大学経済学部同窓会を一つのオイコスとみだてて、そのノモスを守りながら発展させていこうということを、同窓会ニューズレターの名称にこめました。

編集後記

- * 昨年12月にご就任の半田正夫大学学長にはご多忙にもかかわらず早くご寄稿いただいた。
- * 設立総会ならびに設立記念祝賀会に関しては、水澤満里子氏（商30）にテープ起こしの労を依頼。お陰様で詳細な記録を掲載することができた。同氏の労に深甚の謝意を表す。
- * 学部設立記念シンポジウムに関しては石井信之教授（経41）にお願いした。
- * 同窓会ニューズレターのタイトル「Aoyama Oikos Nomos」は去る3月14日の常任幹事会で石井信之教授の提案が採用され決定した。
- * 第1号編集長、門川光雄（経35）。編集員、西尾隆司（商37）、清水美子（経39）、石井信之（経41）、相川和宏（商44）、松原優子（経46）、本郷茂（経47）、梅田澄子（経48）、磯部守孝（経53）、相原一浩（経58）、花岡雅夫（経H7）。

青山学院大学経済学部同窓会会報 第1号

2000年5月15日発行

発行者 榎本 弘

発行所 青山学院大学経済学部同窓会

（青山学院大学経済学部 石井信之の研究室内）

〒150-8366東京都渋谷区渋谷4-4-25

Tel.03-3409-8111（内線12817）